

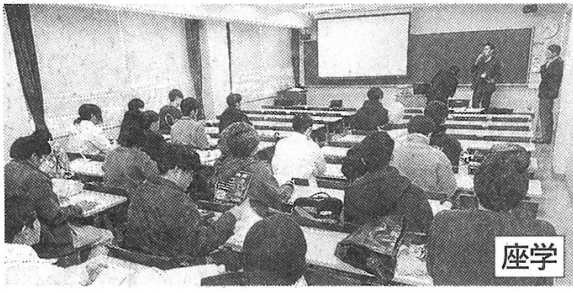
福井大学 工学部生が熱心に学ぶ

橋梁の老朽化 現状と対策

県道路メンテナンス会議

福井県道路メンテナンス会議は21日、橋梁の老朽化対策に関する学生向けの学習会を開催した。

県道路保全課が担当し、福井大学の工学部



座学

3・4年生約50人に向けた。同大総合研究棟の講義に続き、実習フィールドにおける体験型の実習とした。

講義は、福井県のコンクリート構造物の劣化について。県コンク

リート診断士会幹事で、初代会長の石川裕夏氏が話した。13年が

社会資本のメンテナンス元年と位置づけられる意味を示し、福井県

内の3大劣化を紹介。アルカリシリカ反応

コンクリートは生きもの

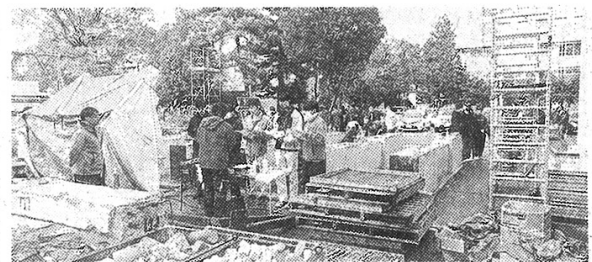
座学は、福井県コンクリート診断士会の幹事を務める初代会長の



石川 裕夏 氏

石川裕夏氏(所属・福井宇部生コンクリート)が講師を担った。20

12年12月に中央自動車道上り線の笹子トンネルで発生したコンクリート製の天井板崩落事故を、まず取り上げ



体験型の実習



(ASR)と塩害、凍害を分かりやすく解説。ASRとは、コンクリ

た。この事故を受け、氏も学生時代に学んだ「コンクリートのメンテナンスフリー(永久構造物)は、全くの間違いだ」と振り返り、再構築。「コンクリートは生きもので、長寿命化には保全が不可欠」と強調した。

ート中のアルカリ成分と、反応性の骨材が化学反応を起こし、その反応生成物が吸水膨張することで、膨張性のひび割れを発生させる現象などと紹介。実習では、診断士会員たちが非破壊の検査機器などを説明。打音調査、ひび割れ調査、ASRゲルステイン法、電磁誘導法・電磁レーダー法などを伝えた。